

峰山中学校では、一人一人が安全に、楽しく、明るい学校生活を過ごせることを願い、以下のきまりを定めます。峰中生としての自覚と誇りと自信を持ち規律ある学校生活を送りましょう。

1 身だしなみ

(1) 基本的な考え方...中学生らしい服装や身だしなみにする。

(2) 制服

制服には必ず名札を縫いつけ、名札なしで学校生活を送ることのないようにする。

男子は学生服・ズボン(標準マークが必要)、女子は峰中標準服・スカートとする。スカート丈は膝にかかる長さ、ベルトは黒で派手でないものとする。(派手な柄や穴があるものは認めない)

白のカッターシャツを着る。靴下は白とする。(ラインも無し)

女子の下着は白を原則とする。(派手な色は認めない)

制服の加工、改造、交換等はしない。また、制服のボタンを外したり、カッターシャツを出したりせず、きちんと着る。

冬期のカーディガン着用については黒か紺色とする。

また、カッターシャツの下には学校指定のTシャツかワンポイントの白シャツとする(長袖可)

(3) ジャージ

体育の授業は、学校指定の体操服を着る。部活動では顧問が指示した服装で活動するが、体育の授業と区別する。(部活動で認められたTシャツ等であっても、体育の授業では認めない)

教科授業は制服で受ける。(登下校時はジャージでもかまわない。)

すそを切ったり、ズボンをずらして活動したり、Tシャツを出したりしない。

パンツ紐が無く、ずれる場合は速やかに購入する(学校販売あり：1本25円)

(4) 靴

指定の体育館シューズを使う。(かかとに名前を書き、袋に入れ教室で管理)通学靴は運動しやすく派手でないものとする。

上履き・下履きともかかとを踏まない。(だらしない履き方をしない)

2 学校での生活について

(1) 交通

交通ルール・マナーを守り、特に交通事故には気をつける。

・ ヘルメットは正しく着用する。(あごひもは緩めず、きちんとしめる。)

・ 自転車の改造や二人乗り、傘さし運転をしない。(自転車に傘がからまり事故になったことがあるので傘を自転車にかけることも認めない)

・ 雨天時、カップ・ウインドブレーカーなどの雨具を着る。

(カップの色は指定はしない。必ず着る)

・ 一旦停止や左側1列走行を守る。(下校時は混雑するので特に危険)

次の場所では実際に事故がありました。危ないため自転車での通行は禁止する。

・ 球場前の峠

・ スクールバス出口～旧プールまで

・ 菊の屋横の道(登校時)

・ 正面玄関(職員玄関前の門扉)

交通のきまりが守れない場合、自転車通学を許可しない。

(2) 学校生活での基本的なこと

時間を意識して行動し、遅刻をしない

中学生にもなって、自分の生活や行動を自分でコントロールできないようでは困ります。自分自身の力を伸ばせるような生き生きとした学校生活になるよう、当たり前のことを当たり前に行えるようにしましょう。また、時間を意識し余裕をもって次の行動に移るようにして下さい。特に移動教室の授業については、早めに行動しましょう。

欠席する時は、担任に連絡をする

中学校に限りませんが、無断で休むということは信用を無くします。許されないことですので、必ず家の人に連絡をしてもらって下さい。(8時25分までに)

授業には集中しよう

先生の話をしっかり聞く、ノートをとる、授業中に私語をしない等、授業に集中する姿勢を自分から作っていくことが大切です。

提出物(宿題・週末課題・長期休業の宿題)は期限を守って必ず提出する。

給食、掃除をしっかりしよう

給食は、健康維持のためにとっても大事です。また、作っていただく方の気持ちが入っています。おいしくいただきます。衛生のため、手を洗い、身じたくを整え、協力して配膳を素早く済ませましょう。食後の食器の返却も洗っていただく方のことを考えて早くして下さい。

掃除は、自分達の生活環境を整えるために必要なことです。自分がさぼれば、誰かがえらい目をしなければなりません。そんな不公平なことは許されません。毎日しっかりと掃除を取り組むことで、根気強さが身につきます。また自分の行動によって、大勢の人も気持ちよくなります。掃除にしっかりと取り組んで、自分を磨いていこう。

部活動

中学校では、生徒全員が興味・関心を持って部活動(体育系・文化系)に参加しています。興味・関心のある部活動を選び、毎日しっかりと参加し、力を伸ばしていく努力をしよう。

SHRが終了したらすぐに部活動に参加しましょう。欠席の時も無断で休まず、顧問の先生に直接理由を伝え指示を受けましょう。

学校行事に積極的に参加しよう

合唱祭、体育祭等、生徒会が中心になる取組があります。全校生徒が一つの目標に向かって力を合わせることは大きな意味があります。積極的に参加し、満足感・充実感を味わって下さい。そして、次につながる力をつけて下さい。

(3) それぞれの場所の使い方

更衣室：着替え以外で使用しない(たまり場にしない)。私物も置かない。

ベランダ：決まりを守って利用する。教室への移動に利用しない。雨・雪の時には危ないので利用を禁止することもある。

保健室や図書室：必要な生徒が必要なときに利用出来る部屋にする。

保健室に行っていて授業遅刻をしてしまうことのないようにする。

職員室：先生達の仕事場です。言葉遣い等も含め、入室時、退出時の礼儀作法に気をつける。

(入室時：失礼します(担当の先生と用件)退出時：失礼しました)

(4) 持ち物

クシ・鏡：更衣室・トイレで使用を認める。(授業中や教室では使わない)

お茶：持ってきててもよい。きまりを守ること。

お金：持っていない(やむを得ず持ってきた場合、朝一番に先生に預ける)

不要物(携帯電話・ミュージックプレイヤー・カード・飲食物等)：絶対持っていない。リップクリームも不要物とする。(ただし治療として必要な場合は申し出ること)

テレホンカード：持ってきててもよい。迎いの連絡には原則公衆電話は使用しない。(前もって迎いの時間を家の人と確認しておく。)

傘：徒歩・スクールバスで通学する場合、傘は教室で管理する。

自転車の鍵：必ず鍵をかける。鍵の管理は自分で責任を持つ。

学習に関係のないものも持っていない。(手作り遊び等の道具も含む)

筆箱にはプリクラや派手なシールは貼らない。(授業への集中力が落ちる)

(5) その他

下校するまでは、無断で学校の外へ出ない。

買い食いしたり、友人の家によったりせずに、まっすぐに登下校する。また、不審な人の誘いにのらないようにする。

友人間での外泊はしない。また、飲食店・カラオケボックス・ゲームセンター等への出入りはしない。(保護者と同伴の時は別)

アルバイトは原則として禁止する。(事情がある場合は申し出て許可を得る)

ガラス等の公共物を破損した場合は、破損届け出用紙に記入し、係の先生に提出する。(原則として弁償)

ホームページやブログ等に他人の悪口や傷つく言葉(誹謗中傷)を書き込むことは、プライバシーの侵害で犯罪として扱われる。マナーを守り絶対にしないこと。

3 今年度、期待すること・したいこと

中学生となった、あるいは先輩となった君たちにさらなる成長を期待します。そのために、生徒会本部を中心にしながら、学級・学年・学校の渦をつくり、お互いに切磋琢磨する関係であってほしい。君たちならできると信じている。大いなる可能性のある君たちです。何事においてもプラス志向で、徹底的に力一杯トライしよう。

そういう中で、以下のことを大切にしていきたいと思います。

(1) クラス・友達の悩みを真剣に考える生徒

いじめ・いやがらせ・暴力は絶対にしない。人の悪口は言わない。

前を向いて取り組んでいる姿勢を評価しよう。出来た、出来ないは結果であってすべてではない。一生懸命に取り組むことに意義があります。思いやりの心を大切にす生徒であってほしいと思います。

(2) 元気な挨拶、勢いをもった行動ができる生徒

あいさつは、自分の気持ちに勢いがつきます。気分もよくなります。

「おはよう・さようなら」等、しっかり言える生徒であってほしい。また、毎日の生活の中でもハキハキとした言葉遣いをしよう。その勢いを毎日の生活につなげ自分の力を伸ばしていこう。少し、「しんどいなあ」と思うことは、次につながる力となります。自分に挑戦です。頑張ろう。

(3) 公共物を大切に使用する生徒

学校のほとんどの物が公共の物です。公共の物というのは、君たちの家の方や地域の方々の税金でまかなわれています。物を壊す生徒であってはならない。ゴミを落とすより、落ちたゴミがあれば拾う心を持ちましょう。君たちのすばらしい心を、人に分け与えることができたなら、最高の喜びとなります。そういう生徒であって下さい。

(4) ルールを守り、行動する生徒

世の中には大勢の人が生きていくために、最低必要限度のルールがあります。そのルールのもとに過ごしやすい社会ができます。学校でも同じことが言えます。自分の自覚のもとに、学校でもしっかりルールを守ろう。

(5) 部活動を積極的にやりとげる生徒

中学校に入って、一番初めに自分で決定したことは「何部に入る」ということではないでしょうか。自分の興味・関心のもとに自分が決め、入ったクラブです。自分が好きなことを精一杯やるということは、他の部分にも挑戦できるということにもつながります。自分を成長させるという中身の追求ができます。真剣にがんばろう。可能性は無限です。新たな自分を発見しましょう。

『輝いて生きる』ということ

『輝いて生きる』とは、どういう生き方なのだろう。我々が思い浮かべるイメージの一つは、ある目的や志、夢に向かって全身全霊を傾けている姿であろう。人生は、絶えざる自己実現の旅である、と言われる。己の夢や志の実現を目指して、絶えず己の命の火を燃やし続ける。そこに、生きがいや命の火の『輝き』がある。

人生は、一回限りのものである。何人も、その宿命から逃れることはできない。それならば、今この時を精一杯、自らの夢や志の実現に向けて、命の火を燃焼し尽くす生き方をしてみたい。そして、その夢や生き方の中に、多少なりとも周囲のものに感動や共感を与えるものがあれば、それこそが『輝いて生きている』ことなのではないだろうか。